

平成24度高山市政クラブ行政視察報告書

1. 視察日

平成24年8月8日

2. 視察先

滋賀県米原市多和田605-10 体験型観光農園ローザンベリー多和田

3. 視察項目

体験型観光農園視察について

4. 視察の目的

グリーン・ツーリズムの調査

5. 視察内容

ア. 概要

2003年秋より着工して、ガーデンから始まり、野菜や果樹の栽培に取り組み、ブルーベリー摘み取り園開園・農産物の加工品の販売を始める。育苗培土製造を親会社より引継ぎ、土づくりから始まる農業を展開してスタートしたが、地元の人たちとの話し合いが7年に渉り、ようやく2011年9月より体験型観光農園ローザンベリー多和田としてオープンした。

事業内容は、体験型観光農園・農産物加工製造・販売・育苗培土製造・ガーデン設計・施工などである。

イ. 効果

JR 米原駅、米原 IC より車で15分の所に広大な農園やガーデンがあり、オープンより一年程ではあるが、こだわり野菜を使ったバイキングレストランでは平日にかかわらず、満席の状態であった。また、ニュージーランドにあるブドウ畑でのワイン販売やジャムなどの販売も好評である。

ウ. 課題

体験型観光農園等は今後、学校や団体の課外教育の場としての宣伝も必要かもしれない。

6. 考察

高山市に於いては、グリーン・ツーリズムの取り組みはあるが、多くの集客をするには客をどう楽しませるか、照準をどの人たちに合わせるのか、地域をどうまとめるのか、アクセス道など課題が多くありすぐに取り掛かれる状態ではないが、今後も調査研究をしていかなければならない。

平成24年度高山市政クラブ行政視察報告書

1. 視察日

平成24年8月8日

2. 視察先

滋賀県米原市春照58-1、地域包括ケアセンターいぶき

3. 視察項目

在宅医療と地域包括ケアの内容

4. 視察の目的

人生の最期を自宅で迎えたいと思う人が全国で63%いるが、12%しか対応できていない中で、【いぶき】は40%を達成した。どうやって達成したのか。

5. 視察内容

ア. 概要

公設（米原市）・民営（公益社団法人地域医療振興協会）で指定管理者制度。医療と施設の壁を取り払い最終的に家族に看てもらふ事と子供達に死を見せて地域医療を支えていく事を目的としている。

イ. 効果

地域全体で暮らしを支える。地域全体が病院（24時間つながる安心）。介護老人保健施設は病院から在宅への中継施設でリハビリ中心。月1回の多職種連携会議（医師からリハビリ、作業療法士等）と後方支援の病院との連携。地域包括ケアを研修医・医学生に伝える。

ウ. 課題

思いやりのある地域づくり（まちづくり）のチャンスであり、老・病・死をとおして生きることを次世代に伝える。【いのち】の教育の場。仕事を続けられる家族介護をめざし、患者を自宅に帰し自宅で看てもらふ（自宅がベット）。24時間体制。・・・さらなる努力を。

6. 考察

どんな家庭でも患者の気持ちになり、1人では出来ない在宅医療を目指す取り組み。それに必要な後方支援の病院との連携・24時間対応体制の総合病院型の包括ケアセンター（経営基盤の安定、文化の交流点、次世代の育成、全国への情報発信、包括ケアの実践）の設立実践は他の施設とはやり方、考え方が基本的に違う。個人の儲けに走らず全体で賄うやり方（雇用の場と教育の場）。今一度、周りを見回し地域医療・在宅医療を考える必要があるのではないか。

平成24年度高山市政クラブ行政視察報告

1. 視察日

平成24年8月8日

2. 視察先

滋賀県米原市 米原南工業団地

3. 視察項目

企業誘致・工業団地の現況について

4. 視察の目的

名神高速道路 I C、北陸自動車道の I C や東海道新幹線、北陸新幹線停車駅が立地するなど拠点性の高い米原市の企業誘致・駅前広場工業団地整備の状況。

5. 視察内容

ア. 概要

米原駅東西駅前広場において民間活力による都市機能の導入を図るため、民間企業から事業進出提案を募集する「米原駅周辺まちづくり事業プロポーザル概要」の策定。

イ. 効果

1 1 社がエントリーしたが、まちづくりの内容としての要素に欠けていた。また、進出の事業費を民間から調達するのではなく、市の公金を当てにしていたなどの理由で審査会での結果対象企業は2社のみであったが、1社が辞退したために最終的には1企業となった。

ウ. 課題

市として今後の計画は、県内初のコンテナ取扱貨物駅として「米原貨物ターミナル駅（仮称）計画」の策定並びに誘致支援制度の確立、企業立地促進法に基づく優遇制度の適用を積極的に導入すること。

6. 考察

高山市においても、東海北陸自動車道（白鳥 I C ～飛騨清見 I C）の4車線化、中部縦貫自動車道の丹生川 I C（仮称）までの事業化が決定している。

また、J R 高山駅周辺整備事業計画が進められており、駅前と駅裏を結ぶ市道通路が駅舎に橋上施設として完成することもあり、これらを効率的に活用した全市域発展の拠点としての駅周辺整備事業が早急に望まれる。

平成24年度高山市政クラブ行政視察報告書

1. 視察日

平成24年8月9日

2. 視察先

滋賀県長浜市元浜町12番38号 長浜黒壁スクエア

3. 視察項目

体験型観光視察、集客のまちづくり手法

4. 視察の目的

観光集客の実態と課題の調査

5. 視察内容

ア. 概要

「黒壁」は平成元年に中心市街地に黒壁ガラス館をオープンしたことから始まる年間200万人以上の観光客による賑わいと高い経済効果で成功例の1つである。第三セクターの「黒壁」とNPO法人「まちづくり役場」そして任意団体「黒壁グループ協議会」が相互連携し常に将来への課題の調査、研究、実践を行っている。

イ. 効果

- ① まちに賑わい：年間200万人経済効果200億円
- ② 雇用の創出：96人の雇用（うち13人が職人）
- ③ 景観の保全：北国街道沿いに30店舗
- ④ 地場産業：ガラス総合文化産業
- ⑤ 市民に誇り：黒壁スクエア

ウ. 課題

客単価の向上、リピーターの確保の為、今以上の体験型観光を推進しなければならない。

6. 考察

高山市においてはグリーン・ツーリズムの取り組みや体験型観光の事例は数多くあるもの、歴史・文化（高山祭 古い街並み）を核とした“見せる高山”に定着している。

新しい客層（若い人）やリピーターの確保そして真の高山が好きであるというサポーターの確保が大切と思われる。これらのことについて今後も調査研究をしていかねばならない。

平成24年度高山市政クラブ行政視察報告書

1. 視察日

平成24年8月9日

2. 視察先

滋賀県野洲市三宅800番地 京セラ滋賀野洲工場

3. 視察項目

太陽電池生産の工場

4. 視察の目的

太陽電池生産の経過と現状について

5. 視察内容

ア. 概要

①京セラ

1959年（昭和34年）4月設立。資本金1157億円。売上高 1兆2000億円。グループ社 235社、従業員71,500人。海外拠点…中国（上海、石龍）、アメリカ（バンクーバー）。国内…北海道～鹿児島 10ヶ所、（内、滋賀県に3工場）。

②滋賀野洲工場

2005年8月に滋賀野洲事業所として設立。2010年4月に滋賀野洲工場に改称。敷地面積：198,197 m²、延床面積：168,153 m²。従業員：671名、パート30名、計701名。協力会社 5社 従業員：573名、合計1,274名。2010年にソーラー工場として28号ビルを建設…5階建て（一部6階建て）、ソーラーと液晶事業（ソニーより液晶事業を承継）。製品・・・低温ポリシリコンTF T（携帯電話、デジタルカメラ、デジタルビデオカメラ）、アモルファスシリコンTF T（医療用高精細モニタ、X線センサー）。

イ. 効果

①国内 3 工場にてシリコン原料を造る（空気中に多くある）。これを基にシリコン基板・素子を造り太陽電池を完成させる。月9000戸分の8000万枚の太陽電池の生産（一枚4w、0.6v）。これを、直列に並べる。年間発電量は1060kw/h。太陽電池は1981（昭和56年）年に認められ1982（昭和57年）年に多結晶シリコン太陽電池を量産（オイルショックで次のエネルギーとして）。【1】太陽電池は国産技術であり日本が最先端【2】高い品質で日本の技術は高い【3】エネルギーの自給（自給率4%）。

②京セラ太陽電池の特徴

発電量が減らない、パネルにクラックや水分の侵入の性能劣化がない、全国1200の学校で設置（設置件数40%でNo.1）、高山市も歩道証明整備事業で設置。

ウ. 課題

家庭用太陽光発電システムにも積極的に取組んでるいが、低コストを望む市場の要求にどう答えるか。研究開発と準備をしている段階。

6. 考察

原子力や石油にたよらぬ太陽光、雪の降る地域の対策も必要。高山市には土地はある。活用の発信が必要と感じる。